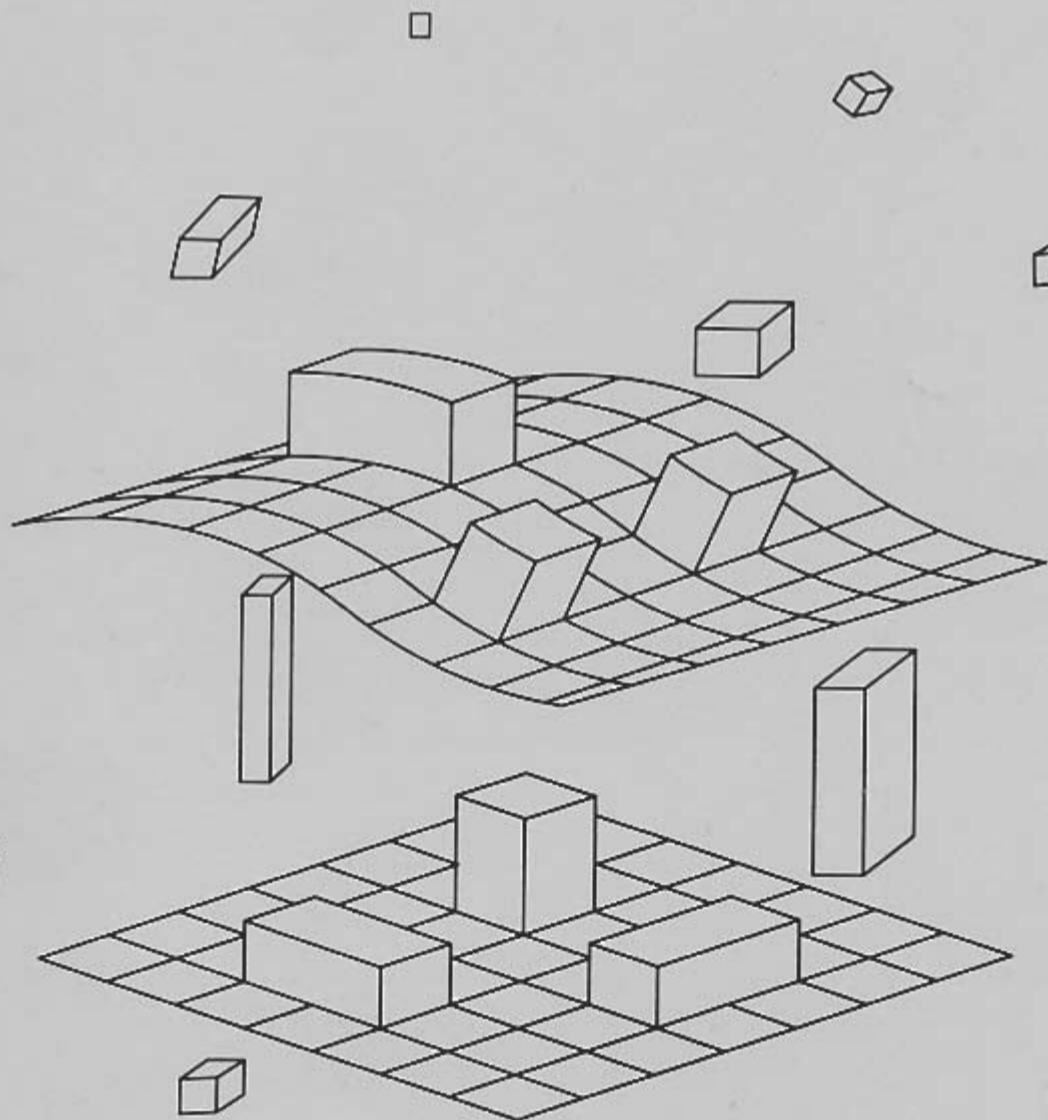


NO. 24
平成9年版



ITSUMIKAI

広島工業大学建築・環境系同窓会.....五三会

目 次

ごあいさつ	1
卒業生の声	4
学生によるゼミ紹介	12
五三会学生部会だより	14
第23回コンペ入選発表	16
" 審査講評	20
交流活動報告	22
親睦ゴルフ会報告	23
五三会活動報告	24
" 収支決算報告	25
第29回(平成9年度)総会のお知らせ	26
広島工業大学建築・環境系教職員名簿	27
五三会会則	28
スポンサー一覧	30
編集後記	30



五三会の皆様へ



環境デザイン学科
教授 門田 博 知

環境学部環境デザイン学科の初めての卒業生を本年3月に送り出しました。教員一同感慨無量のものがあります。この4月から広島工業大学建築・環境系同窓会(五三会)に新しい卒業生が加わりますが、五三会の皆様方の暖かいご支援を賜りますようお願いする次第です。新しい教育組織になって学生部会の設立のみならず教育面、就職面でも大変お世話になって今日を迎えることができましたことについて深く感謝しております。

五三会の方々がお賞をうけられたり、社会で活躍しておられるお姿は在学生にとっても大きな励みになっております。特に、最近、情報時代を迎えて、社会が大きな変革を迫られ、時間、距離、位置、を超えた競争の時代を迎えようとしています。このような状況のなかで卒業後どんな仕事があるのか、自分に向いているのか、いろいろ自分の進路について多くのことを考える学生が増えています。学生も企業も多くの情報の中から選択し、意志決定をする傾向が強くなるものと思います。来年度の就職試験の時期は統一されていないこともあり、早くから学生が職場を訪ねて情報を集めるといいます。その節にはどうかよろしく願いいたします。

さて、学内の近況を紹介いたします。総長、副理事長を始め、学部学科を超えたご協力お仰ぎ、広島工業大学大学院環境学研究科、地域環境科学専攻(修士課程)を新設する運びとなりましたことをお知らせします。

地域環境科学専攻では、居住環境科学を中心としながらも、これと相補関係にある自然環境科学及び環境情報科学分野の3分野の教育研究を行い、専門分野を深く理解し、修士論文をまとめるとともに、他の分野についても理解する努力を惜しまない総合的思考のできる専門職業人の育成を教育研究の目標として掲げています。

この3月に教員の移動がありました。定年退職されましたのは環境学部長を務められた建築構造の椋代 仁朗教授、建築史の坂田泉教授、数学の田代嘉宏教授のお三方です。

また永年勤められた丹羽 博亨教授が武蔵工業大学に転勤されました。先生方のご健勝とこれからもご指導ご鞭撻をお願いする次第です。

また、地球物理学の小林芳正教授、大気環境化学の新田昌弘教授が赴任されました。

最近、環境問題について国際規格ISO14000や9000に準じて日本のJIS規格が決められることになるなど、環境問題解決への課題に対する指針が明らかになりつつあります。また環境アセスメント法の制定についての議論も盛んに行われています。

いずれにせよ、省資源、省エネルギー、資源のリサイクルなどを通して、生産から廃棄に至る全課程について、企業では社長から一社員までがそれぞれ果たすべき役割を明確にし、実行し、評価し、不備があれば見直すということが基本になっています。個人の生活についても同じことがいえましょう。

戦後は焦土となり、荒廃した都市の早期復興に必要とされる資材の生産能力向上、戦災復興のための都市計画を進め、国民は財力の乏しい中で精一杯の努力をして建設資金を工面してきましたが、経済が豊かになると、これまで建設してきた建物がみすぼらしくなり、建て替えを余儀なくされ、建物が次々更新され、使い捨ての建物とまでいわれてきました。建てる時分から面積も、内装・外装、設備を含めて余裕がないのですから、仕方のないことでした。

これからは時間や多少資金はかかっても、壊すのはしのびがたい、是非残して使いたい、使えば、使うほど歳月とともに味が出てくる、すばらしい建物や都市を建設する運動を進める必要があると考えています。

皆様のますますのご活躍とご発展をお祈りいたします。



ごあいさつ



土木工学科
教授 佐藤 立 美

今年は土木工学科建築工学コースの記念すべき第一回の卒業生を送り出すこととなり、また格別の感慨を持っています。

土木工学科建築工学コースは建築学科が改組転換し環境学部として発足した時点で、建築の力学系が土木工学科の力学系と比較的近い学問分野であることで、工学部土木工学科の中で建築工学コースとして新たに発足したことは良くご存じのとおりです。

しかし、当然“建築”をめざす学生を教育する組織であるため、我々はあらゆる機会を捕らえて、君たちが建築学生であることを世の中に認知してもらうための努力を続けてきましたが、いまだに十分認知されているとは言いきれない部分があります。

事実、今年就職試験でも、建設業関係の企業の多くは土木系と建築系の学生の面接日を変えています。土木工学科建築工学コースの学生が土木系の学生の面接日に呼ばれたケースがいくつかありました。

名前の持つイメージは強く内容を十分認識してもらうことは至難のことです。この4月からは土木工学科は建設工学科と改名しますので、多少は名は体を表すことになるかと期待していますが、この4年間の卒業生にとっては、これからも土木系卒業生と誤解されることは多かろうと思います。

組織の改革の狭間の期間に入学し卒業することで、学生に何の責任もないわけですが、従前の建築学科卒業生と異なる世間の目を

感じるとしたら大変申し訳ないと思います。

しかし、今年就職戦線では、土木工学科建築工学コースの学生は本学のどの学科より多くの求人と、非常に早期の全員就職内定を決めてくれました。

このことは、世間の君たちへの期待度として判断することが出来ます。

また、本学の建築学科卒業生達は本当に良く活躍しており、あらゆる方面で彼ら先輩達が広島工大の“建築”を世に知らしめてくれています。

それら建築の先輩達の実績を見習い、連携し、より社会に貢献する技術者に育ってくださることを心より期待しています。

そして、君たちが今後建築技術者として育ち建築界で十分実力を発揮してくれれば全ての問題は解決します。そのために我々に出来る可能なバックアップはするつもりです。

建築も一人で仕事をするとはほとんど不可能であり、多くの異なる職種の人達が同一の目的のために結集して初めて完成します。個々に与えられた課題を解決するためにも多くの人の助言や協力が必要です。したがって、身の回りの人的環境を上手に活用すること、そのためには個々の豊かな知識と人間的キャパシティが非常に大切です。

明日からは、社会人一年生としてまた新たな勉強が始まります。頑張ってください。

卒業おめでとうございます。

ISOって何?

1987年にISO (International Organization for Standardizationの略)、すなわち国際標準化機構によって制定された「品質保証に関する国際的な標準モデル(規格)のこと」をいいます。

今やISO9000シリーズは、世界80カ国に普及し、10万件(1995年6月現在)の認証取得がされています。

ISO9000シリーズは製品の規格ではありません。企業の「品質保証能力」を検査するための規格です。

(「ISO9000に強くなる本」泉文堂より)

「学生生活」

坂田ゼミ 田中敦史

環境デザイン学科に入学して早四年、私も四月から社会人の一人となる。思えば四年前これから始まる華やかな大学生活に期待したり、高校時と違う大学の講義に不安を感じたりと、様々な思いがあったが四年間はあっという間だった。

一年次。生活のあらゆることが新鮮で慣れるのに苦労した。また高校時にあまりしなかったサークルを積極的にいき、コンパ、各大学行事等にも参加した。講義もたくさんありサークルとの両立が大変だった。

二年次。学生生活に慣れてくるが、講義も専門的な内容となり理解に苦しみを感じた。特にコンピュータ系授業には泣かされた。現在の中高生は、学校でPCの授業を積極的に取り行なわれているので、負担になることは少ないと思うが、私にとってコンピュータは大学に入るまで触れることもなかったので、理解に苦しみ、地元のコンピュータに詳しい友人に頼っていた位である。まだこの頃は、将来について頭になく、サークル中心の生活だった。明けても暮れてもサークルで、学生生活で一番楽しかった時期であった。

三年次。ゼミ所属の決定時間であり、私に似合うゼミを探した。この頃から卒論とか、将来について真剣に考えた時期でもあり、よく建築学科に属する先輩方と夜遅くまで話し合ったものであった。私は幼少から郷土芸能に関して興味を持ち、卒論にやってみたく思っていた。

四年次。就職、卒論、単位の3つにひどく

泣かされる。特に「環境」について、入社試験の面接時に、企業側の見解と私の意見の間に異なる点が多く、説明するのに苦労したものである。当初、就職率100%の工大でも、環境学部だけは別なのではと私は思っていたが、就職委員の教員方の積極的な行動により、予想をはるかに超える程の求人があり、一期生ではあったが、かなり良かったのではないかなと思う。

という感じで四年間がたった訳だが、学生生活での一番の収穫は、サークルを通じて得ることのできた友人関係と信頼関係であった。昨今の学生のサークル離れが進む中、私は四年間をフルにサークル活動を行ってきた。ここだの話、勉強よりもこちらの比重が高かったのは確かで、価値観の違う人間と触れ合うことで自分の中で様々な変革をすることができた。学生時代ほど、自由な時間が豊富にあり、私は友人、先輩方とよく無茶な行動をした。時には迷惑をかけたり、ケンカしたり笑ったり、泣いたり…。何か一つのことに必死に打ち込み、同じ時を同じ志を持った仲間と共に過ごす、それこそが学生生活の中で学ぶべき一番大切なことだと私は思う。それが学科の勉強でもいいと思う。一芸人間、つまりこれだけは他人より優れている何かを学生生活の中でつかんでほしい…。カッコイイ人間になってほしいと思う。

最後に、新設学科の一期生の一人として学生生活で得たものを基に、一歩ずつ着実に社会に貢献して行きたいと思った。

○×テスト (計画編)

1. 人体の温熱感覚は、気温・湿度・気流・放射熱及び作業量・着衣量などに影響される。
2. 事務所ビルの便所・洗面所の排気は、一般排気と合流させて同一系統とする。
3. 暖房時に、壁内等の内部結露を防ぐには、外気側に防湿層を設けなければならない。
4. RCラーメン構造の自走式駐車場ビルの階高を2.5mとした。
5. 室内で車椅子が180度回転するのに必要な最小寸法として、直径1500mmの円が内接するスペースを確保した。

「学校生活の思い出」

菅ゼミ 二井内 茂友

年も明け、寒さ厳しい今日この頃、私は卒業研究に追われ、その合間にこの原稿を書いている。するとふと、あと2ヶ月後にはもう卒業だとこの時始めて気付く。その時の寂しさときたら外の寒さにも増してやけに身にしみる。

今まで目前に迫り来るレポートやテストを1つ1つ早く片付けたい思いで後ろをあまり振り向かず、ただ前へ前へと自分を押し進めて来た。早く課題を片付けて好きな部活や自分の趣味にたっぷり時間をかけることだけを考えていた。

しかし、理想はあくまで理想であって、現実には毎日課題に追われる毎日だったような気がする。特に私には勉強と部活以外にもアルバイト(ほとんど仕事)があり、毎朝3時に起きなければならなかった。そう、つまり新聞配達である。そして朝が早い分だけ早く寝なければならぬ。しかし、一番つらい設計製図の課題が長期的に規則正しく出る以上、毎日寝るのが遅くなり、毎日が睡眠不足との格闘だった。今思えば一度に6時間以上寝たのは数えるほどしかない。そんな中で私は今までよくここまで生きてこれたと思う。2年の時、私は在学中にいつかきっと過労死するに違いないと思ったほど肉体的にも精神的にもきつかった。

しかし、良いこともたくさんあった。それは大切な仲間が私のそばにいたことだった。同じ大学、下宿、そして販売所に私を含めて6人も。今思えば、彼らがいたからこそ今の

自分があるのだと実感できる。同僚には負けられないし、後輩には弱い所を見せず、いつも頼られる先輩でいたかったからつらい事がのしかかって来てもそれに耐える事が出来た。

また、新聞配達をやっていたおかげで、新聞が毎日無料で手に入るし、きれいな星や朝やけが見れるし、朝食を食べそこなう事もない。そして、何よりも朝の講義をほとんど休む事がなかったことだ。おかげで今現在、十分要卒単位は満たしている。あとは卒業研究に集中してがんばるだけだ。

私は今まで周囲の普通の大学生よりも損な生活を余儀なく送っていると思っていたが、今、卒業をひかえるに当たって、改めて得をさせてもらっている、貴重な体験をさせてもらったと思う。また、1年の時からの目標がもうすぐ達成できると思った。その目標とは今の大学を卒業するまでに何か一つでも胸を張れるものを見付ける事だった。私は4年間新聞配達を毎日続けた。そして授業料は自分で全て泊めた。この事は社会に出ても、私に子供ができて胸を張って言えるだろう。

最後に、私は大学院に進学することになり、少なくともあと2年は新聞配達を続けなければならない。嗚呼、なんて幸せなのだろう。

○×テスト (法規編)

1. 所定の建築物の内にある守衛所で避難階に設けたものは「中央管理室」である。
2. 下宿の宿泊室の窓その他の開口部で採光に有効な面積は、用途地域に関係なく算定する。
3. 建築物の高さ16mの部分に作用する風圧力の算定に用いる速度圧は、原則として、240kg/m²以上としなければならない。
4. 主要構造部が耐火構造で、3階建て延べ面積200m²の一戸建て住宅は、その階段の部分とその他の部分とを防火区画しなければならない。
5. 私立の幼稚園(鉄筋コンクリート造)を準工業地域内において建築しようとする場合は、特定行政庁の許可を受けなければならない。

卒業生の声

「人間形成学科」

菅原セミ 山西 浩之

とある駅のポスター。白の建物をバックに「環境学部環境デザイン学科新設」の文字。これが自分と広工大との出会いだった。それから数カ月後、スーツ姿で新1号館を見上げている自分がいた…。思えば奇妙な縁である。

将来、公園デザインに携わりたい。そんな思いを小論文に託し、合格の2文字を得、環境デザイン学科に入学。しかし建築学科をベースにしたこの学科は思い描いていたイメージとは程遠く、限りなく建築に近いものであった。そうはいうものの、構造系の授業は少なく、多分に中途半端なカリキュラムに、文系人間でありながらも理系大学に入学した自分にとって、カリキュラムに文句を言いつつも、救われていた面もあったのだ。それが後、就職活動という大きな節目を乗り越えるのに、足かせになるとは当時夢にも思わなかった。

実際、環境デザイン学科に対しての企業側の評価は？であり、建築学科であって、建築学科でない。そんな不安定な状況下で就職活動はスタートした。それを裏付けるかのように他学科に比べ内定率は極端に悪かった。そうした中、夏も終わるかという頃、公園設計事務所に就職が決まり、自分の志望どおりに行けたのには、正直言って驚いている。

就職活動時、何度となく今までの学生生活を振り返る機会があった。自分にとっての学生生活とは、すなわちサークル活動であったと思う。基礎スキー愛好会では、合宿時の先輩・後輩との共同生活や指導を通じ、人間関

係の大切さを感じ、将来に渡って嗜んでいける趣味を得ることができた。そして工大祭実行委員会。模擬店・会場担当として3年間という短い期間ではあったが、仲間と共に協力し、一つのことをやり遂げる大変さと喜び、充実感。先輩が手掛けてきたものを受け継ぎながら、自分の色を出していくことの大切さ。そうした言葉の一つ一つを肌で感じることもできた。しかしながら心残りもあった。自分一人で何もかもやってしまう傾向があり、後輩を育てるという役目を果たせなかったのではないかと。先日、後輩達と飲む機会があった。そのとき「先輩達と一緒に工大祭をやって、本当によかったですよ」この一言に、自分達の思いが伝わっていたんだ、と最高に嬉しく感じたことを覚えている。こうした様々な活動を通じて、貴重な経験を積み、自分という一人の人間が少しでも成長したんだと、今は強く実感し、自信の一部にもなっている。

それが早いもので、卒業まで残り僅かとなり、思い出深い学生生活も幕を閉じようとしている。自分にとって大学とは、様々な体験の下に成長していく、言わば人間形成の場であったと思いたい。偉そうな事を言ったが、まだまだ自分は発展途上人間である。これから社会に出て、先輩方の指導を受け、数多くの経験を積み学びながら、ゆっくりとでもいい、着実に成長して行きたいと思う。

寒冷の候 卒研慌ただしゼミ室にて

○×テスト (構造編)

1. 建築物の固有周期は、剛性が同じであれば、重量が大きいほど短い。
2. 鉄筋コンクリート造の場合、ある階において軸力を負担する短柱が多くなると、その階の必要保有水平耐力は大きくなる。
3. 基礎底面下の地盤の破壊及び傾斜地の地滑りは、いずれも滑り面における土のせん断破壊により生ずる。
4. 鉄骨構造で一つの継手に溶接が高力ボルト接合より先に施工される場合、一般に、溶接継目と高力ボルトに応力を分担させることができる。
5. ブロックの圧縮強度は、A種よりB種が大きく、B種よりC種が大きい。

「学生生活の思い出」

門田ゼミ 佐伯 貴之

私が工大に入学したとき、私の頭の中には不安と期待が絶えず飛び交っていました。何か不安かと言いますと、友達ができるか、講義についていけるか、などといったことでした。期待は、自分の力量によって、大学生活が良くも悪くもなるということでした。

クラブ活動などは興味がなかったのですが、大学の講義を受けていくうちに、体を思い切り動かしたくなることがしばしばありました。友達の紹介もありバレーボール部に入部することにした私たちは、素人であるため数々の困難が私に訪れました。一番悔しい思いをしたのが、基本プレイが満足にできないことでした。

しかし、先輩の中には根気強く私の練習につきあってくれる方もおられ、私は除々に上達していったと思います。技術面も去ることながら、精神面においてもここぞというときの集中力などは、高校時代には見られない成長がありました。他にも、アジア大会、ワールドカップ大会といった大舞台で、補助役員として参加させていただきました。実際に一流の選手を自分の目で見るということの貴重さも痛感しました。

学生の本分である学業面においては、精一杯の努力はしてきたつもりです。3年の後期になると、ゼミナール活動が始まり今まで話したことのない人と共に卒業研究に取り組んでいくことになりました。そのときは、1年の頃の友達になれるかといった不安もありました。

しかし、3年間同じ学科で学んできただけあって、まったく話せないと言った人もありませんでした。ゼミも進むにつれて、就職活動というハードルがあからさまに現れてきました。私の希望は、地元就職したいということでした。そう言うことから、公務員試験を受けることにしました。その結果、ゼミの中でも就職の内定がかなり遅く結果がでました。結果がでるまでの間の焦り、憤りなどは想像を絶する者でした。

今は無事合格してほっと一息つくことができます。でもそのうち卒業研究という次なるハードルが現れてきました。現在の私は、この卒業研究を大好きなスキーを返上して頑張っています。大学の間は次から次に現れてくる問題に対していかに真剣に取り組むかで、自分自身の成長につながるかが決まってくると思います。これから社会にでても自分の納得のいく仕事をこなし、信頼感を得て地元の発展に力を注いで生きたいと考えています。

○×テスト (施工編)

1. エレベーターを設置する場合には、エレベーター設置届を労働基準監督署長に提出する。
2. ネットワーク手法は図解的であるから、工事の出来高がひとめでわかる。
3. 切りばりの交差部・支柱取り合い部は、切りばりの変形を自由にするため、固定しないように注意する。
4. リバースサーキュレーション工法では、孔壁保護と掘削土の排出のために、一般に、清水、ベントナイト溶液を使用する。
5. タイル割り付け図は、コンクリート躯体の施工図に先立ち作成しておく。

卒業生の声

「学生生活の思い出」

中村ゼミ ゼミ生一同

大学に入りたての頃はすべてのことが新鮮に感じたのを思い出します。

特に設計は、はじめてのことで、とても、とまどいもし、ドラフターにむかうことが、うれしくもありました。

課題をこなすごとに、設計のおもしろさを知り、夢中になっていきました。

新しい課題に取り組む時は、内容について調査し、エスキースを重ねていくことは楽しく、図面を仕上げることにやりがいを感じました。しかし、自分の考えを表現することは大変なことでした。思い通りにならないことが多く、期限にせまられた結果、納得のいかない作品もあります。

今後、建築業界で働いていく中でこの4年間で学んだことを生かし、経験を重ねて、自分を高めていきたいです。

「4年間の思い出」

清田ゼミ 竹本裕昭

入学から卒業まで、あっという間の4年間で過ぎて行った。多分、毎日が楽しく充実していたからだと思う。学校内のいろんな行事にも参加することができ、楽しかったという事しか自分の記憶にないくらい、4年間楽しかった。とても自分のやりたかった事が、4年間では出来なかった様な気がする。この4年間で得た経験というのは、とても大切なものであり、この経験を生かし、社会に出て行きたいと思う。

「西川ゼミ」

西川ゼミ 美濃直子

西川先生は厳しさの中にも、とても温かいものをたくさん持っている先生です。怒ると怖いけど、笑顔はとてもすてきな先生です。ゼミ生1人1人のことにも、とても親身になって考えてくださいます。そんな先生の人柄に引かれて、私達ゼミ生は西川ゼミを選びました。

研究内容は“住宅・住環境”を大きな題材として、住宅内のことだけでなく、住宅を取り囲む周囲の環境との関係まで詳しく研究しています。又、現在日本は急激な高齢化社会を迎えており、その中での高齢期の住まいのあり方に対する研究や様々な施設に関する研究にも力を入れて取り組んでいます。

ゼミでは勉強だけでなく、課外活動にも力を入れています。夏にはキャンプをしたり、冬には鍋をしました。その他にもみんなでバトミントンやバレーボールなどのスポーツをすることもあります。

西川ゼミはこのようなゼミです。



「天野ゼミ」

天野ゼミ 鎌田 健司

大学に入って早くも4年の歳月がたち、気が付くともう「卒業」という言葉がちらほらと話題にのぼることも多くなってきた。卒業研究の方は遅々として進んでいないが…。そろそろタイムリミットが見え始め、物理的にも精神的にも追いつめられてきているはずだが、ゼミ生一同、持ち前のバイタリティであいかかわらず「のんき・きまま」に活動している。

我が「天野ゼミ」は天野實先生のもと、自由奔放に「好きなテーマ」を「自分の好み」で研究している。ゼミ生は、4年生5名、3年生5名の計10人。半ば共同研究のカタチでそれぞれのテーマが重なる領域をもつ。全体の雰囲気をつかむためにゼミ生みんなでフィールドワークへたびたび出かけた。サンプルデータの採取、写真などをとりつつ河川沿いに歩くのは楽しいものである。

また、天野ゼミの誇るゼミ室には常にゼミ生以外の「お客様」があふれ、笑い声が絶えない…というより「うるさい」と指摘される事も多々ある。ご近所のゼミの方々、ごめんなさい。この場をもちましてお詫びさせていただきます(しかし、明日もまたにぎやかであることは疑う余地がない…。今後とも宜しくお願いしますね…ホントに)

「学生生活の思い出」

手越ゼミ 田坂 真也

環境デザイン学科1期生として、希望を胸に学生生活を送りました。

講義は建築・環境・デザイン・情報・設計などの専門科目があり、広い分野にわたって多種多様の知識を得ることができました。しかし、就職活動の時、「環境デザイン学科とは何ですか?」「なにをやる場所ですか?」といった聞かれたときに、納得してもらえ十分な説明ができませんでした。

課外活動は、軟式野球部に所属していました。春の大会で全国に出場し、準優勝をしたことは、よい思い出になりました。

手越研究室では、たくさん遊び学んだ。ゼミ生同士の団結力がよく、北海道合宿(北海道一周旅行)もとても楽しいものになりました。

大学生活の思い出と経験を大切に、社会人としてのスタートを切りたいと思います。

〈96年度手越研究室ゼミ活動〉

- 3月 ゼミ内スポーツ大会(バスケット)
- 4月 ゼミ内スポーツ大会(バトミントン)
- 4月 花見(木材港)
- 6月 卒業研究夏期計画提出
- 7月 新入生歓迎会(福岡)
- 8月 夏の合宿(北海道1泊12日)
- 10月 3年生と親睦会(もみのき森林公園)
- 11月 卒業研究中間発表
- 11月 おでんの会
- 12月 忘年会(湯米温泉1泊2日)
- 2月 卒業研究発表会
- 3月 卒業式

卒業生の声

「学生生活の思い出」

佐藤立美ゼミ 滋野勝稔

高校卒業まで親の元で、何の心配もなく生活してきた私にとって大学入学と共に始まる一人暮らしは大変不安でした。今までほとんどやった事のない洗濯や食事の用意、さらに一ヶ月間を限られたお金で生活しなければならないなどという事が特に不安なものでしたが、実際一人暮らしが始まるとこのような不安は全くといっていいほどありませんでした。

また大学に入学した時は、限られた人しか会話をしなかったのですが、4年が過ぎた今では、学科および学校を超えた人と会話する機会がたくさんあったので友人もたくさんでき、私自身これはすばらしい財産になったと言えます。

広島工大のイメージもこの4年間でかなり変わったと確信しています。私が入学した時はどこを見回しても男子学生ばかりで、今までずっと共学の学校で学んできた私にとってはとても考えられなかったのですが、4年間で女子学生がかなり増え、今では食堂や売店・図書館など、どこへ行っても女子学生を見るようになりました。このように、入学した時に比べると大学のイメージはかなり華やかになったと思います。

次に建築という分野についてですが、建築は大変幅広い知識が必要であると思います。建築に関する知識だけでなく日常生活における知識や経験などを増やせば増やすほど建築の感覚的なものや発想がすばらしいものになっていくのではないかと思います。

私は土木工学科・建築工学コースで4年間建築について学んできたわけですが、面白い部分もあり、何も考えずに建築を学び始めた私にとって今は大変良かったと思っています。そしてこれからももっと建築を学んでいきたいと考えています。

私の学生生活は、楽しい事も苦しい事もたくさんあり、多くの事を吸収でき大変有意義に過ごせました。

卒業後は、これらの経験をうまく生かして精一杯頑張ろうと思います。

土木工学科建築工学コース

「4年間の思い出と今後の抱負」

中尾ゼミ 前垣宏光

時が経つのは早いもので、広島工業大学に入学してから4年が過ぎようとしています。この4年間の振り返ってみると、いろいろなことを思い出します。

一年のころというと、入学してすぐに行われたオリゼミでいろんなタイプの友達ができたとなどを思い出します。

2、3年のころから講義も難しくなり、提出日まじかになって徹夜でがんばった製図や実験レポート、夏の炎天下の暑い中の測量学実習、試験前の試験勉強など思い出します。あと、友達と遊びで出たフルマラソンが3時間21分10秒で完走したことなどたくさんありました。

最後に4年になって、春からは就職活動が始まり、友人達は就職先の選択、就職試験対策など懸命に努力し、無事全員内定という結果が得られました。先生方もこのようなことは従来にはない経験であると大変喜んでおられます。このような中であって、私自身は以前から目標としていた広島工業大学大学院への進学も決まり、進学後の高度技術の勉強に期待をふくらましています。テーマとしては構造分析ですが、有限要素法を用いた弾性から弾塑性域に至る高度の解析法に興味を持っています。

卒業後は上記大学院における研鑽により、より高度の技術を身につけ、それを少しでも社会の為に役立てることができればと思っています。



「卒業を迎えて」

高松ゼミ 小中村 操

大学生活も、終わりに近づき感慨無量です。楽しいことばかりの大学生活に、名残惜しいような気もしますが、これをバネに、夢あふれる社会人になろうとしています。

学生として学んだことが、即社会に役立つと思いませんが、生きるための指針になっていくに違いないと思います。

社会人として何かを学ぶときには、いつも謙虚に、先輩の教えを学び、自分自身の努力を惜まず、納得のいく、惰性に流されない精神力を身に付けたいものです。

いつも肩に力を入れず、柔軟な心で、あらゆる情報を拒むことなく取り込み、処理していく能力を持ちたいと思います。

それには、やはり学生と呼ばれる十六年間の生活が基礎になるのではないかと思います。それは、何事も真面目に無難に生きていくばかりが、ベストなのでしょう。何かが起こったときに、どういう対応をし、処理をしたのかというような経験の豊富さが、これからの自分を発展させる原動力になるのだと思います。

自分の為を思い、又、他人の為を思う時、

どういう判断ができるのか、それが、仕事や社会生活に活かされていくのだと思います。自分自身を見失わない心の強さを持ちたいと思います。

私の友人や、周りの人たちは、それぞれ全く違う考え方をします。それは、一緒に育った兄弟にも言えることです。それを考えるとき、たくさんの人の集まる社会で、自分の考えを押しつけることは、それ自体無理なように思えます。そこをわかってくれる社会が、これから育ってほしいと思います。

それは又、自分で自分の責任を、全うできる人たちの集まりでなければならないと思います。

それができていないのが、現在の政治だと思えます。

嘘も方便とは言え、それを逆手に悪用しているとしか思えない、偉い人たちの多さに、あきれます。私は、それに毒されることなく生きていきたいと思います。

私は、他人に左右されず、自分の価値判断で、しっかりした人になりたいと思います。

学生によるゼミ紹介

環境学部・環境デザイン学科

〈菅ゼミ〉

越戸美春

工大のキャンパスの片隅の21号館に菅ゼミはあります。ゼミでは1階のコンピュータの置いてある部屋でリモートセンシングについて学んでいます。リモートセンシングとは人工衛星による地球観測システムのことで、主に学んでいることは2つあり、リモートセンシングのしくみと人工衛星で得た地球の画像からその地域の植生・地形や海洋の状態などを読みとることと、地域の特性を加えた地図をコンピュータに入力することです。2つ目は私もやりましたが、地図の等高線を一本一本読み込ませる地道で大変な作業です。

これらが大内先生と菅先生から授業で学び、実際の作業は大学院や4年の先輩に教えてもらっています。これからもうすぐ先輩が卒業されるので、引き継ぎの作業をするそうで、また21号館の右隣りには新たな建物が建設中で春には完成で、ゼミでの内容がこれから増々本格的になりそうです。

〈廣川ゼミ〉

大貫健太

私達が所属している廣川ゼミは主に施設系計画について日頃研究しており、現代の多種多様にある設計プロセスのなかの1つの方法論として、教育施設、医療施設、業務用施設、社会教育、福祉施設などの主要な公共施設を中心とし、建築計画の基本的条件を学び、施設計画の基礎となる規模計画、配置計画に関する理論を基に、公共的な施設の単体およびネットワークとしての計画についてなどを勉強しています。

さて、ここでゼミ内の雰囲気はと言うと、廣川先生と男5人、女1人の計7人と少人数ではあるが、非常に楽しく、明るいゼミです。又、先生も一見おとなしげに見える先生がゼミ生が明るいせいかな、ゼミの最中は大声で笑ったりして、なかなかいい感じです。ゼミ内の行事も多く、新歓コンパをはじめ、ゼミ生内での飲み会や、焼肉パーティなどがあります。廣川ゼミは、自分のやりたい研究、楽しい学生生活を送るには良いゼミだと思います。

〈佐藤洋ゼミ〉

沖元太一

うちのゼミ(洋ゼミ)は、佐藤洋先生の元ゼミ長の沖元を若頭に、男は岡村・川口・高橋・中田・山川、女は荒谷・高・西村・秦の10名と研究生の岩本君・奥田さんに猫のクロ、ほとんぼりの12名+2で構成されている。

先生の紹介をさせて頂くと、率直に言うところ、大変生徒思いの先生だと思う。生徒の方がやる気だと、なお更である。ゼミ室には本をたくさん置いて下さっているし、相談にものって下さる。しかし、たいへん疲れている時は誰でもそうだが、いやらしい。いつもやさしく、いつも厳しい先生である。

ゼミでやっている事は、一応先生の御専門の記号論的な視点をベースに、形態論やル・コルビュジェについて書かれている本や雑誌をみんなで読み合わせている。と同時に、読むという難しさを思い知らされた。

しかし、書いている自分の視点から言うならば、先生の眼鏡の奥の瞳の奥には“つくること”という事が秘そんでいて、これが重要なのでは、と思っている。“つくる”と平仮で書いたのも、いろんな“つくる”という意味を含んでいると思うし、これからはもちろんこの事が基盤となっていくと思う。

これからの目標は、とにかくみんなでいろんな事に挑戦して、いろんな事をどんどん吸収していきたい。そして、ゼミ全体がどんどん成長してくれればと思うのだが。

〈浅野ゼミ〉

ゼミ生一同

本ゼミは本年度から建築工学コースにでき、未だ先輩がいません。先生は今までは都市工学コースに所属されていましたが、今年度から建築工学コースに所属することになったそうです。但し、以前、本学建築学科に所属していたこともあったとのこと。

卒論では、地盤振動に関する研究を行うことになっていますが、ゼミに入って日も浅く、先生のこと、互いのことも、ゼミのこと未だよく分からず、ここではゼミ生16人の簡単な紹介に止めます。

- 阿部 誠…バイクをいじることが好き。負けず嫌いで気が短いが陰にこもらず陽気。好かれる。「当面は4年で卒業が目標」
- 池田 俊…エスキース同好会所属。趣味はスポーツ・音楽鑑賞。落ち着きと節制の持ち主。「将来は構造設計士になりたい」
- 伊藤 卓史…趣味は映画と音楽。普段周りからボーっとしているといわれるが実は深慮遠謀? 「1日9時間以上眠らないと調子が悪い」
- 上村 武義…趣味はドライブと格闘技を見ること。人の好き嫌いが激しいところがあるが、ひねくれたところがなく素直。「4年になったら地震と地盤の研究」
- 川崎 博之…実験などで進んで積極的に加わる。有事の際には頼れる。「4年になったら地震について勉強するため阪神大震災のあった神戸へ視察に行きたい」
- 川西 泰文…性格は温和。優柔不断。何にでも手を出したがりが結局すぐに飽きてしまう。趣味は読書。
- 河戸 良介…趣味は映画・読書。性格は穏やかで誠実で真面目。好奇心旺盛。考えと行動が結びつかないこともある。「構造について納得して考えられるようになりたい」
- 酒井 昌幸…趣味は釣り車いじり。性格はロンドンの天気のようにころころ変わる。いいときの彼はとてもよい。「もっと勉強して地震について考えたい」
- 鈴木 辰典…趣味は釣り。彼がいるだけで雰囲気か和む。「とりあえずなんでもがんばります」
- 高橋 治…映画鑑賞が趣味。「2年次に構力を教えてもらい分かり易かったのでこのゼミ希望」
- 町田 光秀…サッカー・バンドが趣味。
- 林 直人…趣味は音楽鑑賞。「今はどんな就職をしようかと悩んでいる。これから、建築のことについて今以上に勉強して行きたい」
- 原 義典…趣味は映画鑑賞。「研究は一人でやりたい」
- 藤本 辰男…スポーツをすることが趣味。「卒業・就職が出来るようがんばる」
- 星加 弘由…スノーボードが趣味。「ヘルメットをかぶって仕事して、おじさんと仲良く成りたい」
- 細川 真隆…ギャンブルが好き。「進級目指してがんばって勉強したい」

紹介でバランスを欠いてしまったが、この原稿の締切が早く十分な情報が得られなかった。次回は皆が納得するものにしたい。

〈福田ゼミ〉

戸田 貴光

私達の福田ゼミは、土木工学科建築工学コース唯一の計画系のゼミです。

ゼミでは、設計班と研究班に分かれ、設計班はコンペへの応募と各自の設計、研究班はそれぞれ各自でテーマを設定して調査・分析を行います。

唯一の計画系のゼミであるため、他の構造系のゼミと違い、自分なりの建築に対する考え方や、建物に対する夢を持った人が集まっているように思います。

設計班のメンバーは、本当に設計が好きで、著名な建築家の名前やその作品もたくさん知っているし、自分の作品の中には、こだわりや夢がいたる所にあらわれています。研究班のメンバーは、建築に対する自分の考えや疑問を、調査・分析を行っていくことによって検証し、解決していこうとしています。

このようにそれぞれのこだわりを持ったメンバーを率いる福田先生こそ、強いこだわりを持った人で、そのこだわりは計画の講義でも、このゼミの中でも存分にあらわれています。

以上のように、この福田ゼミは、アクの強い人の集まりであるだけに、他とは違った雰囲気のあるゼミとなっています。



五三會 學生部會

活動報告

學生部會會長 松岡 秀直

広島工業大学 環境学部環境デザイン学科
第1期生261名が中心となりまして、約5,500
名にのぼる建築学科の卒業生の諸先輩が切り
開いた、建築関連業界での実績を受け継ぎ、
また建築関連の情報を知ることや幅広く環境
問題をともに考えることを目標として「広島
工業大学 環境学部環境デザイン学科学生部
會五三會」の設立を行いました。環境デザイ
ン学科のほかに建築系の学科としては工学部
建設工学科建築工学コースがあります。とも
に「五三會學生部會」を設立したいと考えて
準備を進めましたが、私が力不足のこともあ
り同時設立は叶いませんでした。今後は、建
設工学科建築工学コースとも相談しながら、
これまでありました、建築学科五三會以上の
活動を目指して頑張りますので皆様方のご
協力をよろしくお願いいたします。

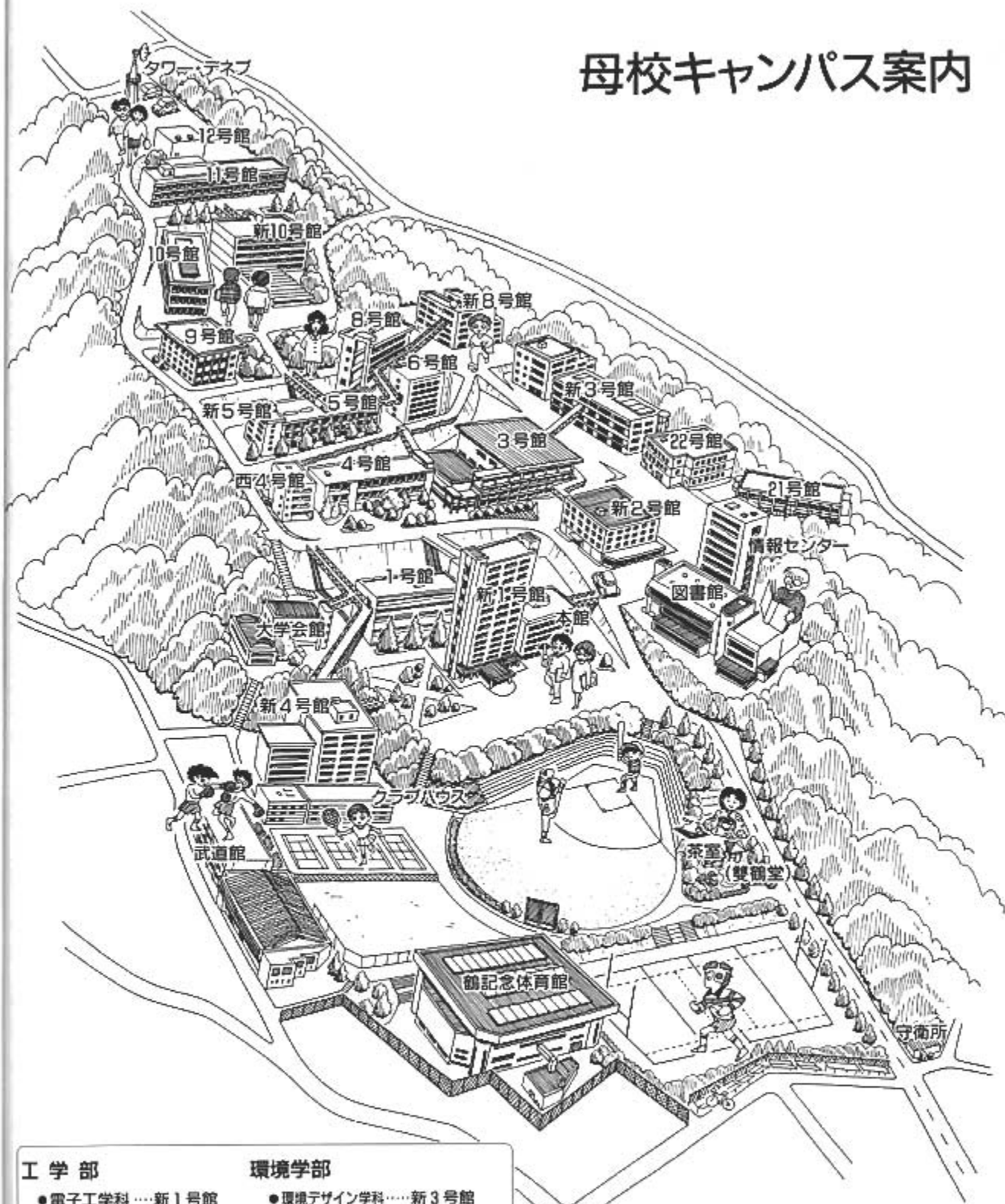
平成8年度活動方針案

- (1) 5月 体育祭と親睦會
- (2) 7月 設立總會(全学年対象)
懇親會(定例としては、暑気払い)
10月 五三會コンペ活動協力と参加
- (3) 11月 大學祭
(五三會の科展、ゼミ紹介など)
4 大學卒業設計作品展協力
- (4) 12月 定例總會、懇親會
- (5) 3月 謝恩會

平成8年度役員

(役名)	学籍	氏名
(會長)	93g245	松岡 秀直
(副會長)	93g166	多田 弘樹
	93g187	堂免 隆浩
	93g046	大歳 嘉昭
	93g078	鎌田 健司
	93g054	大本 清文
(幹事長)	93g164	田坂 真也
(副幹事長)	93g012	石田 真由
	93g163	竹本 裕昭
	93g122	坂本 航生
	93g282	山田 芳弘
(會計)	93g086	神名 重衣
	93g231	福田 純子
	93g154	高橋 秀年
(會計監査)	93g286	山根 美穂
	93g101	桑原 雪江
(書記)	93g218	八塚由紀恵
	93g256	御澤 三卯

母校キャンパス案内



工学部

- 電子工学科 ……新1号館
- 電気工学科 ……新10号館
- 機械工学科 ……6号館
- 建設工学科 ……新2号館
- 経営工学科 ……新4号館

環境学部

- 環境デザイン学科 ……新3号館
- 21号館
- 電算センター ……情報センターIF
- 工作センター ……8号館
- 総合研究所 ……11号館
- (大学事務局 ……本館)

23th ITUMIKAI COMPETITION

第23回五三会建築設計競技結果報告

五三会建築設計競技も、会員の皆様をはじめ県内の大学・高専など関係者の方々のご理解と、ご協力をいただき無事23回目を終えることができました。

ありがとうございました。

本年度は、建築家で母校広島工業大学工学部の非常勤講師として、また、近畿大学工学部においても非常勤で教鞭をとられるなど、ご活躍の西宮善幸先生に、審査をお願い致しましたところ、ご多忙にも関わらず快くお引き受けくださり、「都市の遊場—子供達の未来と未来の子供達へ—」という、課題のもと開催することとなりました。

また、従来図面のみによる応募であったのですが、本年度は試みとして図面と模型による応募を可能にするなど新しい規格も取入れ、応募対象校も建築系学科ということで、新たに広島女学院大学生生活科学部生活科学科住居科学コースを加え、例年よりも一歩前進した形での開催となりました。

昨年10月14日に応募締切を迎え、広島工業大学環境学部環境デザイン学科8作品、広島工業大学工学部土木工学科建築工学コース2作品、呉工業高等専門学校5作品、近畿大学大学院1作品の計16作品の力作が寄せられました。応募していただいた皆さん、誠にありがとうございました。

また、同月19日に広島工業大学広島校舎において、多くの応募者や興味のある学生の方々が見守る中、公開審査会を行いました。

どの作品も力作ばかりで甲乙付け難く、審査にあられた西宮先生もだいたい悩まれたご様子でしたが、各作品を時間をかけてじっくりとご覧になり、別記の通り各賞が決まりました。

入選の皆さん、おめでとうございます。

誌面の都合により、ここでは入選作の紹介のみに留まらせて頂きますが、応募された作

品はCGを用いるなどプレゼンテーションに工夫を凝らしたりするなど、どの作品もそれぞれに興味ある提案がなされており、惜しくも選にもれた作品もそのレベルは高く、一生懸命に取り組んでいる姿が目に見え、年々上がってゆく応募作品のレベルを準備に携わる者としてたいへん嬉しく思うと共に、ここに紹介するスペースがないことを非常に残念に思います。

表彰式・懇親会は11月4日、広島工業大学大学祭期間中に環境デザイン学科の学科展会場の一部をお借りして行いました。懇親会では西宮先生を中心に、また、直前まで別室にて講演をされていた建築家の宮森洋一郎先生も参加され、熱のこもった論議が交わされたいへん有意義なものとなりました。

この懇親会は毎年行われ、学生の方々は一線で活躍しておられる審査員の先生との、OBの方々には熱心な学生達との交流の場として恒例になっています。これからもより実りあるものにしていきたいと考えておりますので、どなたでもお気軽にご参加下さるようお願いいたします。

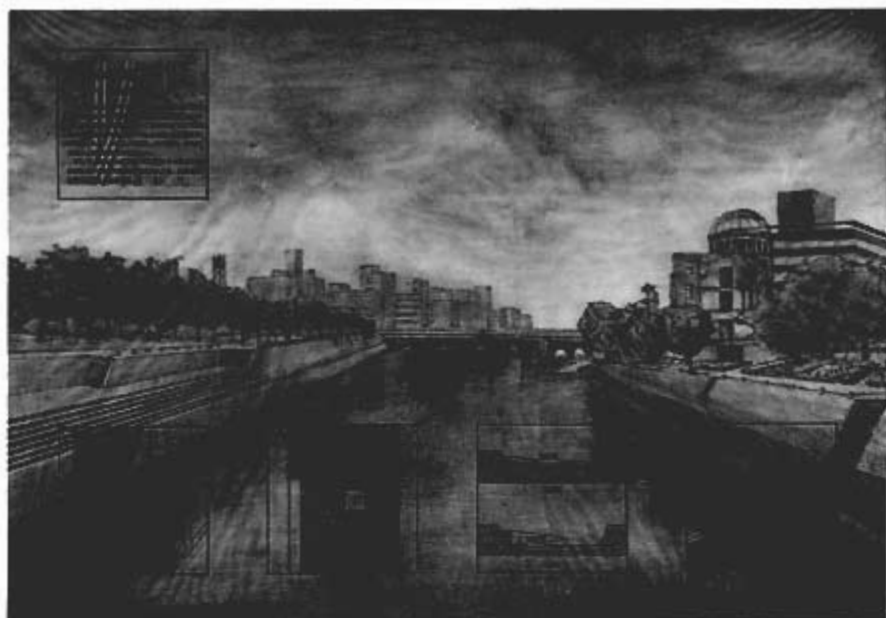
西宮先生には、この事業にご理解頂き、ご多忙の中課題の作成、審査・講評と貴重なお時間を割いて頂きましたことお礼申し上げます。

ご協力ありがとうございました。

懇親会では応募者一人一人に熱心にご指導頂き、先生の建築に対する情熱に頭の下がる思いでした。

以上にて本年度の建築設計競技の結果報告を終わりますが、今後ともこの設計競技がより発展していきますよう、皆様方の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

五三会建築設計競技事業委員会 委員一同



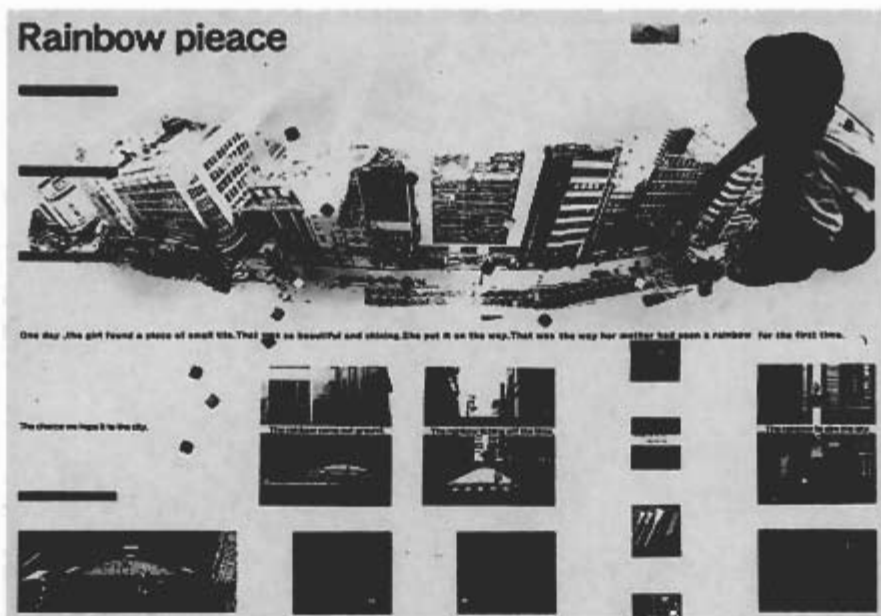
優秀

岩本 賢作・青原 豊・春日 琢磨・本島 浩司・森定 達志・山本 信康
 (広島工業大学工学部土木工学科建築工学コース)



優秀

桑田 修一
 桑原 武明
 堂免 隆浩
 (広島工業大学
 環境学部
 環境デザイン学科)



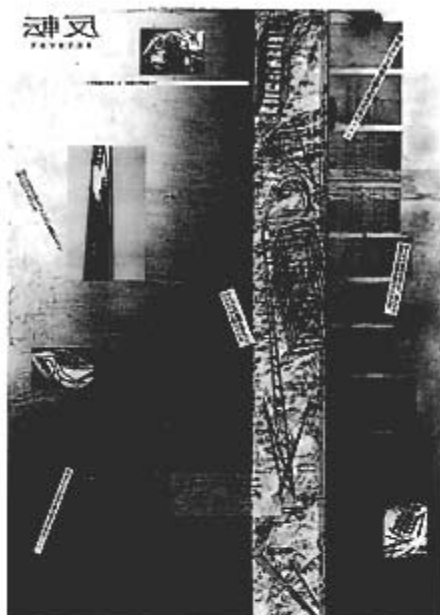
準優秀

長田桂代子・伊達 勇人・上野 庸介
(広島工業大学環境学部環境デザイン学科)



準優秀

河野 孝
岡本 裕紀
鈴木 浩之
(広島工業大学
環境学部
環境デザイン学科)



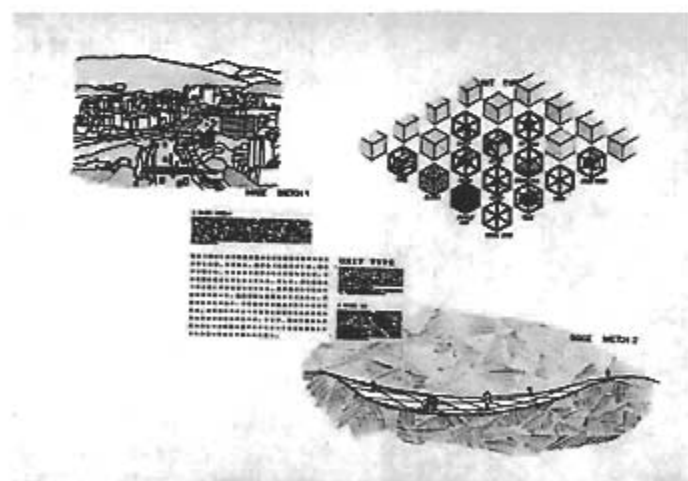
佳作

楠本 紀子・奥田 恵子
古賀 裕二郎・野村 計誌
田村 健太郎・河口 修一
中槇 明子・大谷 達也
(広島工業大学環境学部
環境デザイン学科)



佳作

倉谷 正敏
(近畿大学工学部大学院)



佳作

友枝 広卓
(呉工業高等専門学校建築学科)

建築家 西宮 善 幸

五三会のコンペも重ねて今回で23回目を迎えられたことを、心からお慶び申し上げます。四半世紀近い回数に驚きと、続けられたコンペの歴史的重さを感じております。

今回の課題は、これまで一貫して続けられている“広島”というテーマをベースとし、都市の将来に向けてのイメージや考え方の提案で、アイデアコンペに近いものであり、莫然とし、的の絞りにくい課題であったと思われました。

現在、広島市自体が戦後50年を振り返りつつ、2045年を目標とする未来に向けて広島都市づくりをめざしたP&Cが進行していることにも、少しは暗示めいたことを示唆する意味が含まれているかもしれないと思っております。

現在の都市はすでに実体がなく、人間の視界から生み出されたひとつの枠組みでしかありません。現代のような様々なものや情報があらゆるスピードで交錯する世界では、都市はさながら様々な糸によって織られた壮大な織物として捉えることができます。どの糸



をとっても他の糸と複雑に絡み合いながら全体に関係しています。ひとつの糸をたどることで都市という全体を横断しながら私達は日々の生活を営んでいます。今回の課題は、このひとつの糸口を発見し、広島をどのように読み取るか、広島で出来ること、広島から働きかけることで何があるかを探る、といった視点から審査にあたりました。

応募作品はいずれも力作で、優秀賞2点、準優秀賞2点、佳作3点とその順序にはあまり意味を持たせないように、できるだけ多くの作品を選びました。

優秀案の桑田案は、都市・自然の様々な要素を選び出し、見る・さわる・歩く・感じるといった人間のもつ記憶と五感に訴えるといった案でした。アイデアに優れよく練られており、この“場”を体験することで未来を垣間見ることのできる可能性を見いだせる作品でしたが、広島というコンテキストを今一つ感じる事ができませんでした。一方、岩本案は逆に広島川というイメージを最大限に利用し、都市と川という関係を潮の干満による時間的経過を折り込みながら計画している点は評価できましたが、表現としてそれだけに終わっており、選者が様々な憶測をもってよい方向に解釈した結果でしかありえないのが残念でした。

準優秀の長田案は、プレゼン全体が感じさせている子供たちの瞳を通して見た未来への憧れと夢で、都市のもつ無機質で殺伐とした風景を変えていく可能性を含んではいますが、実現性と、非実現性を併せ持ち課題と格闘をして、単に造形的な手法に終始している



ように思えました。河野案は、少しパフォーマンズの気らいはありますが、インパクトのある作品で実現できるときっと楽しいなと思えました。

佳作の柿本案は、建物の隙間を巧みに練られた構造物で埋めていますが、的が絞れず難解な表現となり訴える力に乏しかったと思えます。友枝案は、着眼点と発想は夢を感じ取れますが、計画と表現にもう一息の詰めがあるとよい作品になったと思えます。倉谷案は、歴史的背景をベースに詰めています。課題の読み違いか糸口となる糸の魅力に乏しく思えます。

今回は、応募として図面のみでなく模型も加えてみたのですが、応募が少なく残念でした。表現方法としての模型も、このようなコンペだからこそ出来ると思われるので、今後に期待したいと思っております。また、選にもれたどの作品もそれぞれにきっかけや、可能性をつかみつつあると思っており、応募者各位の一層の健闘を心から祈りたいと思います。

最後に、今後もコンペを継続されることを望むとともに、その企画、運営に当たっておられる五三会OB諸兄の活動に心から敬意を表したいと思います。



第24回五三会建築設計競技のお知らせ

次回で24回目を迎えます五三会建築設計競技は、本年度と同じく「国際平和文化都市広島街の街づくりを考える」をメインテーマに、課題作成・審査を福山大学の先生にお願いする予定にしております。

賞金総額は15万円。課題内容、応募要綱など詳しいことは近日中に各大学、高専等にポスターにてお知らせ致します。

多くのご応募お待ちしております。

交流会報告

御近代設計コンサルタント 小 瀧 宏 治

さる5月、12月にそれぞれ新入会員歓迎会、忘年会が行われました。

(新入会員歓迎会)

梅雨前にもかかわらず晴天に恵まれた満天の星空の中、テパト屋上ビアガーデンにて行われました。屋外ということで比較的開放的にわきあいあいと会は進行していったと思います。新入会員は最初人生経験豊富なOB諸方に囲まれ緊張していたようですが、会が盛り上がりにつれすっかり会の主役になっていたようで笑顔の合間にまどめな顔しながら様々な話に盛り上がっていたようでした。この会の良いところはこれから新会員としてまた新社会人としてのスタートラインに立った彼らがアドバイスを受けることによって、これからどのように進んで行けばよいのかという1つのヒントを与えてくれる事だと思います。これからも彼らが会また社会の若手の主役となり、活動していつてくれることを望む次第であります。

(忘年会)

師走の忙しい中大勢の人が集り会が開催されました(多少在学生の集り具合が気になりましたが…)。最初に五三会の今年の活動、これからの活動について話があった後、会は佳境に入っていました。新入歓迎会と同様、皆普段仕事中には見られないであろうリラックスした笑顔の中わきあいあいと進み、盛りがりの中会は終りを迎えました。

最後にOB諸方の来年の抱負、これからの五三会の進む方向についての抱負また在学生においては卒業後の抱負について(もちろん社会において、五三会において大活躍することを約束しました)語り、決意を固め会は終了しました。

工学部建築学科を卒業した自分にとって、今後増加する新体制(土木工学科建築工学コース、環境学部環デザイン学科)卒業会員の在学時の学生生活については興味深く、それについて聞くことのできた今回の会は有意義であったと思います。

会の成功は前述したとおりですが、ただ両日とも若いOB、在学生の人数が多少少なかったのが気になりました(会自体の人数の限りもあるのですが…)。先輩諸方の経験談豊富な話や、同世代のOBの人がどのような仕事をしているかを知る上でこのような会に参加することは有意義であるといえるでしょう。今後、新会員、ベテランOBまたはこれから会員になれる現在在学生の方々もこのような会に参加されてみてはいかがでしょうか。

五 三 会

活 動 報 告



幹事長 山 野 正 晴

「五三会」会員各位様におかれましては、益々の御活躍のことと存じます。

広島工業大学は今年4月には建築学科改組転換後初めての環境デザイン学科・土木の建築コースの学生を社会に送出す予定で、「五三会」としては新しいカタチでの新入会員を迎えることとなります。昨年の7月には広島工業大学環境学部環境デザイン学科学生会「五三会」が結成されました。「五三会」活動もそういった状況の中で建築を軸とする新しい方向が模索されようとしています。

平成8年度の活動は、まず6月に新入会員の歓迎会をして和やかな意見交換で盛り上がり、次に西宮先生の審査による「五三会」建築競技設計、10月には親睦ゴルフ大会、12月在学生と膝を交えての忘年会そして会報誌の編集と着実に活動を行っております。又幹事会においては新しい活動提案等もできており検討を加えていきたいと思っております。今後とも「五三会」活動として会員各位の御理解、御協力ならびに御参加のほど宜しくお願いいたします。最後に「五三会」か集うにご協力いただいた方々に心より感謝申し上げるとともに今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

平成8年度活動報告

1. 会報誌「五三会」第24号の発刊
2. 第23回「五三会」建築設計競技の実施
3. 「五三会」会員組織の充実
4. 在学生との交流活動
5. 「五三会」会則改訂
6. 「五三会」ゴルフコンペの開催

平成8年度役員

- (会 長) 中島伸夫(株)LAT環境設計事務所
(副 会 長) 森田洋生(広島市役所)
梶山孝之(梶山設計室)
(会 計) 松本孝志(広島市都市整備公社)
木下知夫(創建造建築設計社)
(会計監査) 金川豊(広島市役所)
神垣聡志(㈱フォルテ建築研究所)
(書 記) 下谷文子(広島市役所)
(幹 事 長) 山野正晴(㈱アトリエUD)

「五三会」は、昭和58年度から終身会費制を導入しており、会員のみ会報を発送させてもらっています。会費未払いの方及未加入の方は早急に手続きをお願いしたいと思います。

下記「五三会」事務局へご連絡下されば振込用紙を送らせていただきます。

【「五三会」事務局】

広島市佐伯区三宅2丁目1-1
広島工業大学環境学部環境デザイン学科
菅原研究室内
〒731-51 TEL082-921-3121

五三会収支決算報告

平成8年度収支決算報告 (平成9年3月1日現在)

◆収入の部		(単位 円)
繰越金	6,154,797	
新会員会費	795,200	
広告料	540,661	
合 計	7,490,658	

◆支出の部		(単位 円)
会議費	46,168	
バイト費	7,000	
印刷費	39,861	
金融機関手数料	420	
雑費	60,964	
会報誌印刷費	494,400	
会報誌郵送費	242,730	
設計競技費	320,619	
小冊子印刷代補助	162,000	
新入会員歓迎費	52,700	
郵送費	24,270	
繰越金	6,039,526	
合 計	7,490,658	

平成9年度収支予算(案)

◆収入の部		(単位 円)
繰越金	6,039,526	
新会員会費	800,000	
広告料	340,000	
合 計	7,179,526	

◆支出の部		(単位 円)
会議費	60,000	
バイト費	50,000	
印刷費	50,000	
金融機関手数料	1,000	
雑費	100,000	
会報誌印刷費	500,000	
会報誌郵送費	250,000	
設計競技費	320,000	
総会負担金	100,000	
予備費	100,000	
繰越金	5,548,526	
合 計	7,179,526	

平成7年度収支決算報告

◆収入の部		(単位 円)
繰越金	6,104,751	
新会員会費	904,540	
広告料	0	
合 計	7,009,291	

◆支出の部		(単位 円)
会議費	68,168	
バイト費	71,945	
印刷費	0	
金融機関手数料	1,412	
雑費	0	
会報誌印刷費	173,040	
会報誌郵送費	117,430	
設計競技費	317,799	
学生会助成金	50,000	
新入会員歓迎費	54,700	
予備費	0	
繰越金	6,154,797	
合 計	7,009,291	

●平成7年度収支決算報告にて、一部誤記がありました。ここに訂正して、お詫び申し上げます。

建築学科記念事業基金収支決算報告

平成8年度収支決算報告 (平成9年3月1日現在)

◆収入の部		(単位 円)
繰越金	2,560,078	
合 計	2,560,078	

◆支出の部		(単位 円)
会議費	0	
座談会小冊子作成費	250,000	
在学生交流費	107,615	
在学生助成金	110,000	
繰越金	2,092,463	
合 計	2,560,078	

平成9年度収支予算(案)

◆収入の部		(単位 円)
繰越金	2,092,463	
合 計	2,092,463	

◆支出の部		(単位 円)
会議費	10,000	
总会援助費	250,000	
在学生交流費	200,000	
在学生助成金	100,000	
繰越金	1,532,463	
合 計	2,092,463	

広島工業大学建築・環境系同窓会「五三会」
第29回総会・懇親会のご案内

「五三会」は一つの節目を迎えました。再三色々な形でお伝えしていますが、建築学科が昨年春の卒業生をもって収斂し、環境デザイン学科と土木工学科建築工学コースに引き継がれています。そしてその第1期生が今春卒業となります。

そこで、今年度の総会・懇親会は、社会に巣立つ彼らに向かい入れる意味で、例年、全体同窓会の懇親会に合流しているところを、五三会単独での懇親会を開くことになりました。また昨年、五三会会員の2名の方が、建築界で権威のある賞を受賞されましたので、今回の総会に兼ねて講演会を同時開催することに致しました。

今年度の総会・懇親会の内容は下記のとおりです、一人でも多くの方にご参加頂き、節目の会にふさわしいものにしてゆきたいと思っております。

なにかとご多忙のことと思いますが、当日は万障繰り合わせの上、是非ともご出席頂きますようお願い致します。

記

〈総会・講演会〉

日 時：平成9年4月19日(土曜日)

・総会 午後3:00～3:30

・講演会 午後3:40～5:00

講演者 JIA新人賞受賞者 石田敏明氏

JSCA賞受賞者 新田貴太男氏

(入場無料)

会 場：鶴学園広島校舎

〒730 広島市中区中島町5-7

TEL 082-249-1251

〈懇親会〉

日 時：同 日 午後5:30～7:30

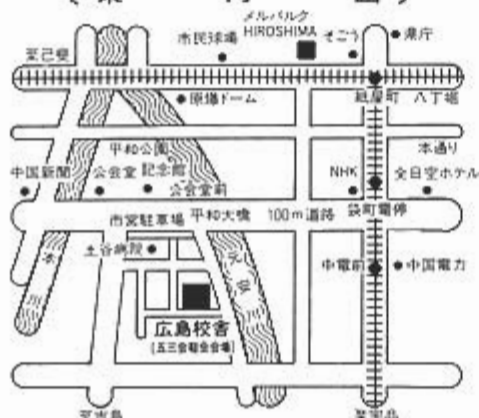
会 場：メルパルクHIROSHIMA

〒730 広島市中区基町6-36

TEL 082-222-8510

会 費：¥7,000(新入会員¥3,000)

〔 案 内 図 〕



交通機関

- △広島駅より
 広島バス—100米經由空港行き・平和公園下車
 広島バス—吉島営業所行き・平和公園前下車
- △バスセンターより
 市内電車—宇品行き・袋町又は中電前下車
 (100米道路平和大橋西詰南へ50m)
- △広島空港より
 市内電車—紙屋町經由広島駅行き、又は己斐行き(中電前又は袋町下車100米道路平和大橋西詰南へ50m)
- △広島空港より
 広島バス—100米經由広島駅行き・平和公園前下車

[広島工業大学建築・環境系教職員名簿]

〔土木工学科 建築工学コース〕

氏名	住 所	郵便番号	電話番号
中尾好昭	教授		
佐藤立美	"		
高松隆夫	"		
浅野照雄	助教授		
福田由美子	講師		
大林真	技術職		

〔環境学部 環境デザイン学科〕

門田博知	教授		
田頭良子	"		
丹羽博亨	"		
水田一征	"		
篠原道正	"		
椋代仁朗	"		
森保洋之	"		
坂田泉	"		
光易恒	"		
東元定雄	"		
喜久川政吉	"		
天野實至	"		
神田隆至	"		
菅雄三	"		
菅原辰幸	"		
中山勝矢	"		
大内嘉宏	"		
佐藤洋	助教授		
西川加禰	"		
横田壽	"		
高本登	"		
伊勢野薫	"		
中村隆夫	"		
野添久祝	"		
廣川協一	"		
清田誠良	"		
西垣安比古	"		
手越義昭	"		
三好孝治	講師		
三村泰臣	"		
熊谷啓	"		
平田圭子	助手		

広島工業大学建築・環境系同窓会 「五三会」会則

第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学工学部建築学科・同土木工学科建築工学コース・環境学部環境デザイン学科(以下、「建築・環境系」と称す)同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は、本部を広島工業大学内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置くことを得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校の建築・環境系学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行う。
- (1) 集会
 - (2) 会員相互の連絡並びに共助に関する事
 - (3) 会誌及び会員名簿の発刊
 - (4) 母校に対する精神的、物質的援助
 - (5) 会員の功績に対する顕彰
 - (6) その他本会の目的達成に必要な事

第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以て組織する。
- (1) 正 会 員 広島工業大学建築・環境系卒業生(大学院を含む)のうち会費を納入した者
 - (2) 準 会 員 正会員以外の広島工業大学建築・環境系卒業生
広島工業大学建築・環境系在学学生(大学院生を含む)
 - (3) 特別会員 母校建築・環境系教職員及び旧教職員
 - (4) 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められたもの

第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。
- | | | | |
|-----------|----------|-----------|-----|
| (1) 名誉会長 | 置くことができる | (2) 会 長 | 1 名 |
| (3) 副 会 長 | 2 名 | (4) 会 計 | 2 名 |
| (5) 会計監査 | 2 名 | (6) 幹 事 長 | 1 名 |
| (7) 幹 事 | 若干名 | (8) 書 記 | 2 名 |
- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- (1) 名誉会長は総会をもって推す
 - (2) 会長・副会長・幹事長・会計・会計監査・書記は総会で正会員の中から選ぶ
 - (3) 幹事は総会の決議により正会員の中から委嘱する

- 第 8 条 各役員はそれぞれ求の任務を持つ。
- (1) 会 長 本会を代表し会務を総括する
 - (2) 副 会 長 会長を助け支障がある場合は代理する
 - (3) 会 計 会計事務に当たる
 - (4) 会計監査 会計を監査する
 - (5) 幹 事 長 会務を主宰する
 - (7) 書 記 書記事務に当たる

- 第 9 条 役員任期は一ケ年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充し、これによって就任した者の前任者の残りの期間とする。

第四章 顧 問

- 第 10 条 この会に顧問は若干名をおく。
- (1) 顧問は総会の決議により適任者を委嘱する
 - (2) 顧問は会の諮問に応じる

第五章 会 議

- 第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会、役員会及び事業委員会とする。
- 第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年 1 回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時、会長が召集する。
- 第 13 条 総会は次のことを決める。
- (1) 会則の変更と改正
 - (2) 決算及び予算
 - (3) 事業委員会の組織
 - (4) その他緊急事項の協議
- 第 14 条 役員会は会長が認めた時召集し、次のことを決める。
- (1) 総会に附議する原案
 - (2) この会の運営に関する諸事項
 - (3) 事業委員会の組織
 - (4) その他緊急事項の協議
- 第 15 条 事業委員会は必要に応じて役員により組織し、第 4 条に掲げる事業についてその事務を処する。
- 第 16 条 会議の議決は出席者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

第六章 会 計

- 第 17 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。
正会員は終身会費として、入会時に 10,000 円を納入しなければならない。
- 第 18 条 この会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

第七章 委 任 事 項

- 第 19 条 この会則に定めのあるもののほか、必要な事項は役員会においてこれを定める。

付 則

本会則は、平成 8 年度から施行する。
旧会則で正会員であったものは、本会則における正会員に移行する。

編集後記

会誌発行にあたり、御寄稿下さった方々、また、多数のスポンサーの方々にお礼を申し上げます。

今回は、学生からの原稿を中心に編集しました。

わたしは入社して五年。年賀状等で、同級生の近況を知るとき、大学生生活より長い時間が過ぎてしまったと感ずることがあります。

そんな、みんなの近況を知り合えるような同窓会誌を目指していきたいと思ひます。

尚、寄稿下さった方には、五三会より記念品をお送りいたします。

〇×テスト解答

	1	2	3	4	5
計 画	○	×	×	×	○
法 規	○	×	○	×	×
構 造	×	○	○	×	○
施 工	○	×	×	○	○

「五三会」第24号 編集委員
本山 慈子(H4) 勝熊谷組
☎082-241-3221

〔連絡先〕
五三会事務局
広島市佐伯区三宅二丁目1番1号
広島工業大学環境学部環境デザイン学科
菅原研究室内
(〒731-51) ☎082-921-3121代

広島工業大学建築・環境系同窓会会誌
「五三会」第24号

編集責任者 本 山 慈 子
発行責任者 中 島 伸 夫
企画・製作 ハローデンイン
発 行 平成9年3月